

杏花里在宅介護支援センター

《運営・処遇方針》

【私たちの使命】

杏花里在宅介護支援センターでは、利用者の人生に寄り添える身近な存在となり、「自己決定権の尊厳」を活かした居宅介護計画、作成支援をしていきます。高齢化や福祉ニーズの多様化、家族関係の複雑化や経済的に余裕のない人が多く増えている傾向があり私たちの役割の重要性を感じております。利用者・家族等の家族間で判断や意見が異なる場合が多く家族の立場からの意見が必ずしも利用者にとって良い事とはかぎらず「思い」の違いから支援方向の見極めが難しいケースには背景を分析し専門職として、利用者を軸に生活を維持する為に傾聴力・専門力・まとめる力を高め自立支援に向けた本人の「強み」「自信」を引き出せるアセスメントを身につけてまいります。

【私たちが提供できる価値】

コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で多くの高齢者の方々が外出を控え、自宅で長い時間を過ごすようになっております。生活が不活発な状態が続く事により心身の機能が低下する事が懸念されます。自身の健康管理、感染リスクには十分留意しつつも利用者の健康維持に向けた支援が継続できるように日頃から情報共有し、担当以外でもサービスの微調整や提案を行い、敏速な対応を実践していきます。

《主任介護支援専門員》

主任介護支援専門員は現場で悩んでいる介護支援専門員のスーパーバイザーとして課題解決の手法や重視するケアマネジメントの視点の助言や指導ができる頼られた存在になれるよう資質向上が重要と考えております。生活機能が低下している、何らかの支援を必要としている高齢者の把握を通じて必要な支援策を検討し、具体的なプランの立案・実行に移る過程のニーズを明確化し、支援の必要性そのものに対する認識を一致するために、それぞれの置かれている立場を傾聴することが重要です。認識のズレや阻害は何なのかを発見・気づきができるよう一緒に分析してまいります。

《介護支援専門員》

利用者・家族には今まで通り真摯な姿勢で対応し言葉にならない要望に心を寄せながら適切な介護給付を提供、その根拠が可視化できるように書類業務を遂行していきます。制度の表面的な説明、変更点などを説明するのではなく各種研修や関係機関の通達から情報収集し、制度改定に至った背景や今後の動向も含めてわかりやすい言葉を使用し、理解が得られるように努めてまいります。

【年度終了時の展望】

新たな加算要綱や改正内容をeランニング・zoom研修やAIを活用する事により適切な支援を目指していきます。事業所として一人当たり担当件数37件の実績148件を目標に稼働率100%を目指し役割を果たしてまいります。